

# 磐城時報

本報社 磐城 新町四丁目  
印刷部 磐城 新町四丁目  
電話 二二二  
代印部 磐城 新町四丁目  
電話 二二二  
印刷部 磐城 新町四丁目  
電話 二二二  
代印部 磐城 新町四丁目  
電話 二二二

## 東北を救へ！と 血の叫び更らに續く

### 脱黨を賭す松岡、佐藤、比佐 三氏の努力に感激の陳情員

(昨報)東北を救へ……と血の叫びを上げて政府に迫つた東北農村救済陳情團は二十三日議會再開の爲め一先散會する事になり一縣三名の代表者(本縣は縣會正副議長長田子縣議)が二月まで滯京して飽まで運動を續ける筈で、實父重徳の爲め歸郷した田子縣議も近日中再出京運動を續ける事になつてゐるが、東北地方選出の代表十連の不誠意には陳情員各々が激昂して居り陳情員たる秋原縣議の如き「貴紙にも報せられた様に東北代表議士の不誠意には全く驚ろいた、當初から我々陳情團の爲めに眞剣に働いて呉れたのは政友會總務の松岡俊三と語つてゐた。

## 井上、佐藤、色川三氏 昨夜正式に起訴さる

### 事件一切は豫審に附さる

破産法違反で起訴前強制收容された縣議井上茂作、色川製材社長色川勝三郎、内郷村消防組頭佐藤三三氏はその後三堀検事の手によつて取調を受けてきたが二十六日遂に正式起訴され事案集議會例會は二十九日午後七時から同院審判局に於いて開審されるが、當夜は

## 醫學集談團會 第一回例會

二十九日夜

平町磐城共済病院の第二回醫學集談會例會は二十九日午後七時から同院審判局に於いて開審されるが、當夜は

## 田子翁病む 見舞客で混雑

町村制實施以來の勤続村長として國寶的存在とも言ふべき三堀村田子英吉翁は舊來病臥中で磐城丸の報告を鶴首してゐるが、當夜は

## 事件意外に進展か 警銀をめぐつて飛ぶと語流言

### 兩監財人も召喚

井上、色川、佐藤三氏の起訴確定したが此れに先立ち二十四日出席した三堀検事は後藤檢事正の指導を仰ぎ二十五日歸郷するや突如磐城銀行の破産監財人たる漆畑元吉辯護士を召喚、更らに同夜急遽來平した後藤檢事正と共に同監財人たる永野柳造辯護士を取調つた後極秘裡に深更まで鳩首協議を遂げ後藤檢事正は昨二十六日早朝歸郷したが、此の事件に對する檢察當局の態度は頗る慎重嚴肅を極はめて居る点から見て事件は意外の進展をみるものと豫想され破産銀行警銀をめぐつて幾多の蜚語流言飛び亂れてゐる。

## 秋原縣議出福

縣議秋原義雄氏は縣下學校衛生協議會に出席のため二十九日出福する。

## 平圍棋研究會 元磐越跡開業

平町圍棋研究會の元磐越跡開業は、井上、色川、佐藤三氏の起訴確定して代表的の代議士佐藤三三氏、二段山崎徳次郎、一級川太郎、山田文、氏等の贊助により同町馬場町氏は南町元磐越銀行跡に平圍棋研究會と稱するクラブを設置此の程から開業してゐるが同會では初心の人々にも懇切に指導し地方愛棋家の養成普及に努むる筈である。

## 質實な都會少年 華な夢を追ふ農村子弟

### 露骨に表はれる就職希望

小學兒童の卒業期が目前に迫つたので町職業紹介所では例年通り各職給小學と協力して少年を迫ふ都會地の兒童達が努めて二十日午後六時から平町新亭に於いて披露の宴を催し

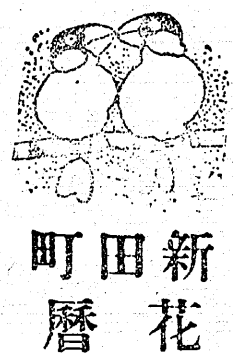
## 伊庭家のお家騒動 養子に譲つた財産が惜しく 隠居無効の訴訟事件は 養子側の勝訴判決

平町才龍小路無職伊庭さい(七六)は昨年十月養子の伊庭修(四〇)を相手取り福島地方裁判所平支部に隠居無効の訴訟を提起し被告修は同町眞木恒精辯護士を代理人として緊争中であつたが昨二十六日午前十時平支部判

## 福内會の 歳男申込

平町紺屋町石城福内會では既報の如く二月三日縣社子會神主権は勿論時價約四千圓の地、建物、田、畑等の不動産を譲り自分は隠居してゐたがその後に至り東京に嫁いでゐる實子の志賀マサに此の全財産を譲り度くなつたので昨年十月中途に「自分は知らない

あつたが二十三日病狀急變し突如重態に陥つたので東京中の長子縣議田子健吉氏は急遽歸郷村嚴父の看護に努めてゐるが九十の老體だけに再起は困難と見られ各方面からの見舞客が絶せ付け



町田新花

(四二)倉谷ふみ子氏(三三)佐藤平氏(四二)杉本榮一氏(四二)

青山勲氏慶事  
磐城炭礦庶務係次席青山勲氏は早川トク氏長女邦子嬢と結婚したので二十日午後六時から平町新亭に於いて披露の宴を催し

あの方では有名な燕たれ五人が白惚れ顔を並らべてどくろ巻く、或るお座敷に呼ばれた林家の幸子……「今晚あり……」と、いともしどやかに豫押し開けると、これはどうです！一人残らず観類舞がッラリ

赤い顔でもする事か？そこは涼しい辛子だけに「脂番が定まつたら御座にこちらへ……」

「籤なんかめんどう臭いジャッ拳になさいよ……」で流石の悪たれ共ギヤッ

鼻の薬「チクノール」  
山野 遊 藥 局

辛棒強い或るお客が時計と睨めつて悦子の雄辯を傾聴してゐたら一息つくのが三十二分間に一ベン……はまさか。

